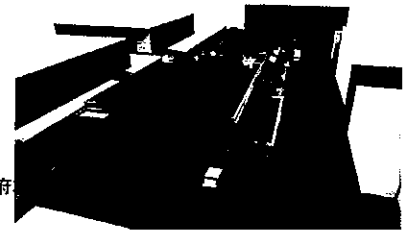


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 炊飯センター新築工事	階数	地上2F
建設地	京都府長岡京市神足芦原12番1の	構造	S造
用途地域	指定なし・法第22条区域	平均居住人員	170 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2022年12月13日
敷地面積	5,439 m ²	作成者	全国農業協同組合連合会京都府
建築面積	2,970 m ²	確認日	2022年12月13日
延床面積	3,668 m ²	確認者	全国農業協同組合連合会京都府本部 一級建築士事務所 松浦 剛昌



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.3 ★★★★★ ☆☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆ ☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆</p> <p>30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 76%</p> <p>③上記+②以外の 76%</p> <p>④上記+ 76%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.1</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.5</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	LGS+GB-Rを使用するなど環境に配慮している	その他 特になし
Q1 室内環境	内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	特になし
Q2 サービス性能	外壁材、内装材は耐用年数の長いものを採用	特になし
Q3 室外環境 (敷地内)		
LR1 エネルギー	BPI=0.73 BEI=0.62	
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能(LGS+GB-R)	
LR3 敷地外環境	光害対策ガイドラインの項目の過半を満たしている LCCO ₂ 排出率=76 %	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される